

矢川神社と 甲賀侍衆

7月23日付けで、油日神社境内と矢川神社境内が国指定史跡となりました。今回は甲南町森尻に鎮座する矢川神社を見てみましょう。

矢川神社は延喜式にも載る古社で、本殿の背後には豊かな鎮守の森が広がり、松並木の続く参道の正面には、文明14年(1482年)に建立された茅葺きの楼門が建つなど、中世の雰囲気を残しています。

中世、矢川神社は「池原柚庄」と呼ばれる莊園の中心にあり、柚二十二カ村を氏子とするこの地域の中核的な神社でした。戦国時代には旧甲賀郡内に割拠していた甲賀侍衆たちは地域的に連合して自治組織「甲賀郡中惣」を成立させますが、これが確認できる最初の史料に矢川神社の名が登場します。元亀2年(1571年)の「郡中惣異見条々案」(山中文書)には、「新宮・矢河の宗徒と飯道寺の宗徒とのもめぐりに際し、双方から長老10人ずつが矢川神社の下馬の前に集まり、互いに礼儀を取りかわした」とあり、その時の裁定と調停者が「郡

問い合わせ

歴史文化財課 調査管理係

☎ 86-8026 ☎ 86-8216

中惣」であったと言われています。こうしたことから矢川神社境内は、郡中惣の集会場として使われたことがうかがわれるのです。

当時、このような紛争の決着は、裁判を通して「取合之儀」という礼儀の交換を神社の社頭で行うことで決着したのであり、神社が地域の和解の場としての役割を果たしていたようです。地域の侍衆たちも神社の祭祀や運営を通じて地域の平和秩序を維持し、また領主としての立場を誇示したのだと考えられます。

また永禄11年(1586年)織田信長の上洛に際し、攻められた近江の六角義治が甲賀侍衆たちを集結させたのも矢川神社でした。望月吉棟を仲介役として、六角氏と意を通じる甲賀侍衆をここに集めています。

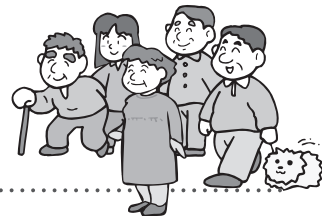
このように矢川神社は、この地域を治めていた甲賀侍衆たちの絆を深める重要な場であり、甲賀郡中惣を知る上で、欠くことができない史跡と言えます。



▲矢川神社楼門

介護 予防を はじめましょう

自立した生活を継続するために ～介護予防教室を開催～



市から5月中旬に送付しました基本チェックリストの結果*で生活機能の低下の可能性があると診断された方、またそれ以外の方でも筋力の低下や気力の衰えなど、ご自分の心身が気になる方、今後もできる限り自立した生活が継続できるように取り組みませんか？

市では皆さんの生活機能を向上し、「自己実現」「生きがい」を支えることを目的とし、次の介護予防教室を開催します。

筋力ステップアップ教室

個別の運動機能に応じ、ストレッチ、バランス運動などを行い、転倒予防、特に足の筋力アップを図ります。

お口いきいき教室(口腔機能の向上)

口腔清掃や口腔リハビリについて、個別に歯科衛生士などが指導を行います。

軽度認知症予防教室

軽度認知症の進行速度を緩め、少しの支援で自立した生活が続けられるように、効果のある活動に楽しみながら取り組んでいきます。

栄養改善教室

管理栄養士などの指導のもと、低栄養予防のため食べる楽しみを重視した講義や実習を行います。

※市では要介護・要支援認定を受けている方を除く昭和20年3月31日までに生まれた方を対象に、5月中旬に基本チェックリストを送付させていただきました。質問に答え返送していただいた方には、8月中に結果を送付しましたのでご確認ください。

●介護予防教室に関することは下記までご相談ください。

問い合わせ

水口地域包括支援センター

☎ 65-1170 ☎ 63-4591

土山・甲賀地域包括支援センター

☎ 88-8136 ☎ 88-6557

甲南・信楽地域包括支援センター

☎ 86-8034 ☎ 86-5974